

2022年2月期 第3四半期 (2021年3月1日～2021年11月30日)

決算説明資料



2022年1月12日(水)



2022年2月期 第3四半期 営業概況

	2021年2月期 (2020年3月～11月)	2022年2月期 (2021年3月～11月)	前期比	増減率
営業収入	137,840百万円	168,620百万円	30,780百万円	22.3% ↗
営業利益	17,176百万円	28,176百万円	10,999百万円	64.0% ↗
経常利益	18,205百万円	29,946百万円	11,740百万円	64.5% ↗
親会社株主に帰属する 四半期純利益	11,226百万円	20,164百万円	8,937百万円	79.6% ↗

【新型コロナウイルス感染症の影響について】

新型コロナウイルス感染症に伴う当社グループの主力事業への影響は、軽微になりつつはあるものの、当第3四半期においても継続しております。

映画館においては、9月末まで緊急事態宣言やまん延防止等重点措置発出を受けて、営業時間短縮、アルコール類の時短販売、販売座席数の制限等の感染対策を施しながら営業活動を続けました。緊急事態宣言等が解除された10月からは、各自治体から要請された、リバウンド防止措置に則り、コンセッションの時短営業等に取り組みました。なお、10月下旬以降は通常営業となりました。

演劇劇場においては、感染対策に努めながら、当第3四半期は、ほぼ通常通りの営業で多数の公演を実施することができました。また、日比谷シャンテ（商業施設）においても、10月24日まで時短営業やアルコールの時短販売を実施しました。

【第3四半期決算の概況】

映画営業事業において、当社配給の9月17日公開『マスカレード・ナイト』、11月3日公開『劇場版「きのう何食べた？」』、東宝東和配給の10月1日公開『007／ノー・タイム・トゥ・ダイ』のヒットがあり、増収増益。

映画興行事業において、洋画作品の公開延期や時短営業等による興行収入の伸び悩みがあったものの、上記東宝グループ配給作品の健闘によって、赤字だった前年同期に比べ増収増益。

映像事業において、「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」等の「TOHO animation」作品が、パッケージ販売、商品化ライセンス、配信等の多面的展開により、引き続き業績を牽引し、大幅な増収増益。

映画事業全体では、上記の要因により前年同期と比べ、増収増益。

演劇事業では、緊急事態宣言に伴う払い戻しはあったものの、前年同期に比べ公演を多く実施できたことにより、増収増益。

不動産事業では、不動産賃貸事業において、保有物件の一時的なテナント入れ替えによる減収があり、不動産保守・管理事業において、コストコントロールに努め増収増益となったものの、全体としては減収減益。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う特例措置の適用を受けた雇用調整助成金及び国や地方自治体等からの助成金等を「助成金収入」として特別利益に、劇場や商業施設等の臨時休業期間中の人件費・借家料・減価償却費等ならびに中止した演劇公演に係る製作費等を「臨時休業による損失」として特別損失に計上しております。

セグメント別業績一覧

	営業収入			営業利益		
	2021年2月期 (2020年3月～11月)	2022年2月期 (2021年3月～11月)	増減率	2021年2月期 (2020年3月～11月)	2022年2月期 (2021年3月～11月)	増減率
①映画事業	82,270	106,865	29.9% ↗	7,811	16,328	109.0% ↗
映画営業	28,491	29,636	4.0% ↗	6,063	6,986	15.2% ↗
映画興行	32,107	40,958	27.6% ↗	▲ 1,235	488	—
映像事業	21,672	36,270	67.4% ↗	2,982	8,853	196.8% ↗
②演劇事業	4,793	11,904	148.3% ↗	▲ 1,043	2,455	—
③不動産事業	48,812	47,885	-1.9% ↘	13,395	12,283	-8.3% ↘
不動産賃貸	21,098	20,273	-3.9% ↘	9,611	8,768	-8.8% ↘
道路事業	20,527	20,324	-1.0% ↘	3,320	2,972	-10.5% ↘
不動産保守・管理	7,187	7,288	1.4% ↗	463	541	16.9% ↗
④その他事業	1,963	1,965	0.1% ↗	▲ 232	▲ 35	—

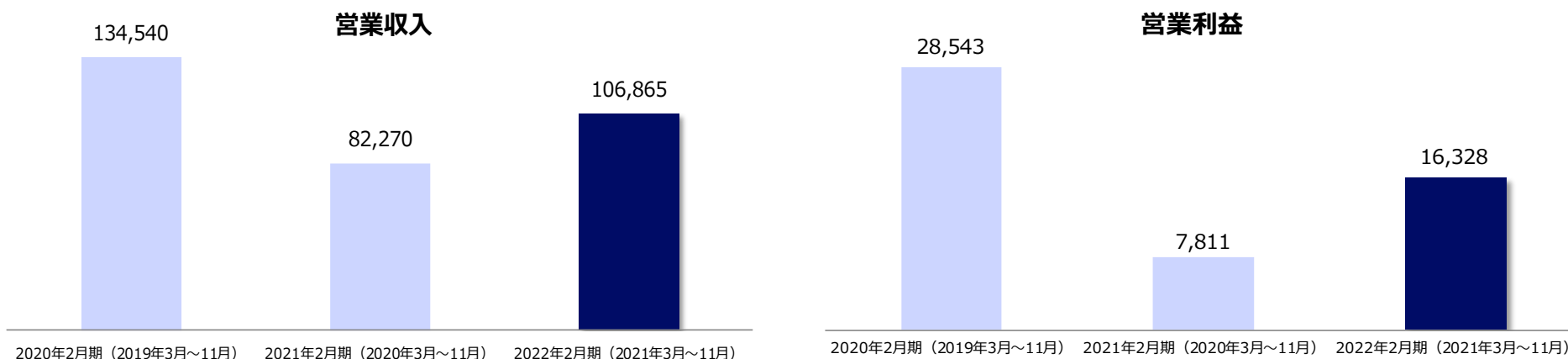
(単位:百万円)

セグメント別業績（四半期別）

	営業収入			営業利益		
	第1四半期 (2021年3月～5月)	第2四半期 (2021年6月～8月)	第3四半期 (2021年9月～11月)	第1四半期 (2021年3月～5月)	第2四半期 (2021年6月～8月)	第3四半期 (2021年9月～11月)
①映画事業	37,682	40,031	29,152	6,079	7,543	2,706
映画営業	12,321	10,328	6,987	2,702	2,731	1,553
映画興行	12,879	16,023	12,056	295	909	▲716
映像事業	12,481	13,680	10,109	3,082	3,902	1,869
②演劇事業	2,884	3,692	5,328	483	664	1,308
③不動産事業	16,604	15,878	15,403	4,922	3,745	3,616
不動産賃貸	6,725	6,745	6,803	3,136	2,748	2,884
道路事業	7,471	6,703	6,150	1,570	737	665
不動産保守・管理	2,407	2,429	2,452	215	260	66
④その他事業	636	641	688	▲39	▲62	66
合計	57,808	60,242	50,570	10,518	10,945	6,713

(単位:百万円)

セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、『マスカレード・ナイト』（興行収入37.8億円）、『劇場版「きのう何食べた？」』（同13.6億円）、『燃えよ剣』（同11.5億円）といった作品がヒット。また、東宝東和(株)『007／ノー・タイム・トゥ・ダイ』（同27.0億円）が興行収入30億円に迫るヒットとなるなど、増収増益。
- 映画興行事業では、緊急事態宣言解除後も自治体から要請されたリバウンド防止措置に則り、コンセプションの時短営業等の制限があったほか、新作洋画の公開延期等により厳しい状況が続いたが、上記東宝グループ配給作品の堅調な稼働により、第3四半期累計では増収増益を確保。11月17日に「TOHOシネマズ セブンパーク天美」（大阪府松原市 10スクリーン）をオープン。
- 映像事業では、パッケージ事業において、TVアニメ「呪術廻戦」「ゴジラvsキング」のセールスが好調。アニメ制作事業において、TVアニメ「呪術廻戦」「僕のヒーローアカデミア」等の商品化権収入が大きく伸長。出版・商品事業では、劇場用パンフレット、キャラクターグッズにおいて『僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ワールド ヒーローズ ミッション』が好調だった他、「TOHO animation STORE」（ECサイト）における「呪術廻戦」の関連商品販売が増加。映像事業全体として大幅な増収増益。

第3四半期の主要稼働作品状況等

東宝(株)配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
マスカレード・ナイト	9月17日	37.8
劇場版「きのう何食べた？」	11月3日	13.6
燃えよ剣	10月15日	11.5

東宝東和(株)配給作品（10億以上）

作品名	公開日	興行収入
007／ノー・タイム・トゥ・ダイ	10月1日	27.0

第3四半期におけるTOHOシネマズの営業状況

【営業時間短縮】

所在地	サイト数	期間
北海道 宮城 茨城 栃木 埼玉 東京 千葉 神奈川 静岡 愛知 岐阜 大阪 京都 兵庫 岡山 広島 福岡 熊本 鹿児島	57	9月1日～9月30日

【*リバウンド防止措置】

所在地	サイト数	期間
東京（一部）※営業時間短縮も実施	1	10月1日～10月8日
岐阜（一部） 広島 福岡 熊本（一部）	7	10月1日～10月14日
愛知	4	10月1日～10月17日
京都 兵庫（一部）※営業時間短縮も実施	2	10月1日～10月21日
埼玉 東京 千葉 神奈川 富山（一部） 大阪	30	10月1日～10月24日

*感染症再拡大防止のため、各自治体からの要請を受け、コンセッションの時短営業等を実施しました。

第3四半期の映画営業事業・映画興行事業の推移

映画営業事業 興行収入推移

(単位：円)

	2021年 (133期)	2020年 (132期)	前年比
3月	10,122,378,904	1,202,249,004	842.0%
4月	8,940,877,900	138,867,250	6438.4%
5月	3,087,028,450	68,957,350	4476.7%
1Q	22,150,285,254	1,410,073,604	1570.9%
6月	2,990,184,400	704,847,150	424.2%
7月	6,968,430,230	5,524,371,150	126.1%
8月	7,645,189,650	8,938,505,850	85.5%
2Q	17,603,804,280	15,167,724,150	116.1%
9月	4,311,624,310	4,215,769,262	102.3%
10月	2,933,130,920	16,595,851,250	17.7%
11月	2,122,276,010	15,423,752,960	13.8%
3Q	9,367,031,240	36,235,373,472	25.9%

※東宝映画営業部が配給した作品の興行収入

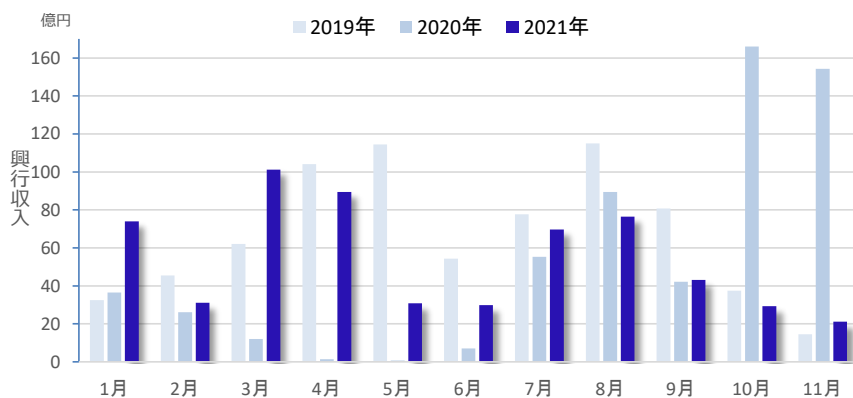
映画興行事業 興行収入推移

(単位：円)

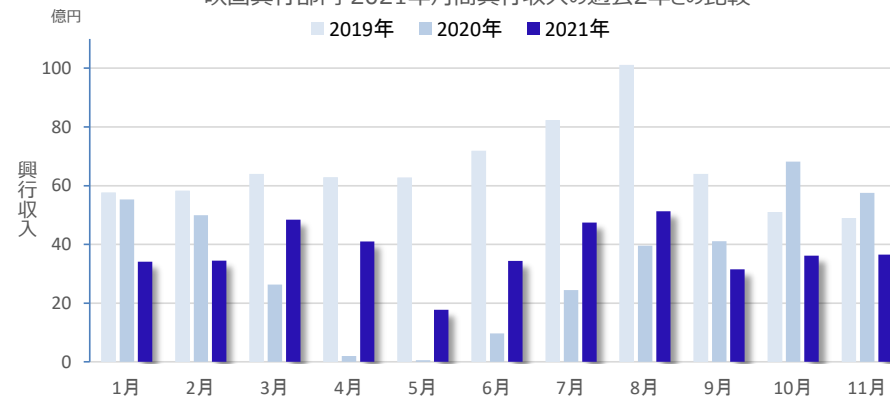
	2021年 (133期)	2020年 (132期)	前年比
3月	4,842,139,643	2,637,484,812	183.6%
4月	4,099,777,614	197,832,004	2072.4%
5月	1,775,416,231	59,131,870	3002.5%
1Q	10,717,333,488	2,894,448,686	370.3%
6月	3,440,625,871	972,494,252	353.8%
7月	4,741,518,384	2,447,555,473	193.7%
8月	5,130,905,686	3,955,265,644	129.7%
2Q	13,313,049,941	7,375,315,369	180.5%
9月	3,155,215,396	4,108,038,345	76.8%
10月	3,621,347,310	6,817,202,926	53.1%
11月	3,653,691,267	5,758,736,645	63.4%
3Q	10,430,253,973	16,683,977,916	62.5%

※全国のTOHOシネマズ等で上映されたすべての作品の興行収入（東宝配給作品を含む）

映画営業部門 2021年月間興行収入の過去2年との比較



映画興行部門 2021年月間興行収入の過去2年との比較





©2021「劇場版 呪術廻戦 0」製作委員会 ©芥見下々／集英社

『劇場版 呪術廻戦 0』

2021年12月24日（金）公開（第4四半期）

公開3日間累計 動員数：1,908,053人 興行収入：2,694,128,150円

公開11日間累計 動員数：4,314,027人 興行収入：5,873,064,900円

公開18日間累計 動員数：5,671,950人 興行収入：7,714,084,650円

2018年3月「週刊少年ジャンプ」連載開始（コミック18巻）

シリーズ累計発行部数 6,000万部突破

1月7日に解禁された『劇場版 呪術廻戦 0』公開後PVが3日間で300万回以上も再生され話題に

（TVアニメ）

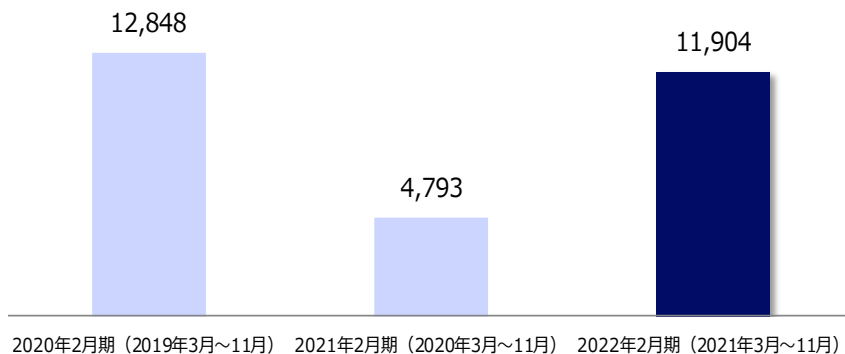
2020年10月から2021年3月放送

金曜深夜「スーパーアニメイズム」枠史上、平均世帯視聴率歴代1位

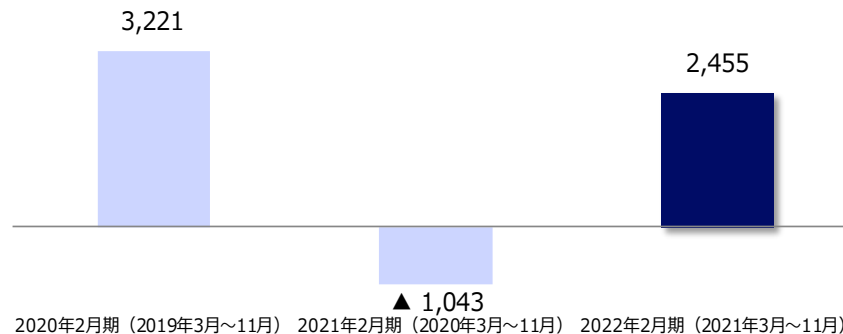
国内の主要配信プラットフォームで視聴者数1位を多数獲得し、世界100以上の国と地域でも配信・放送され人気を誇る

セグメント別業績【演劇事業】

営業収入



営業利益



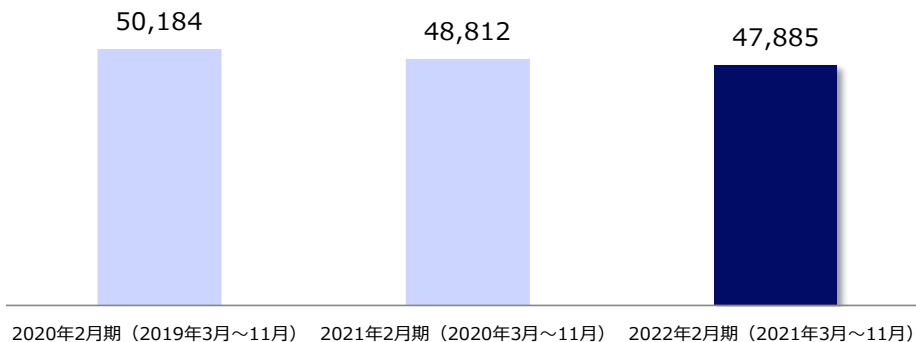
(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

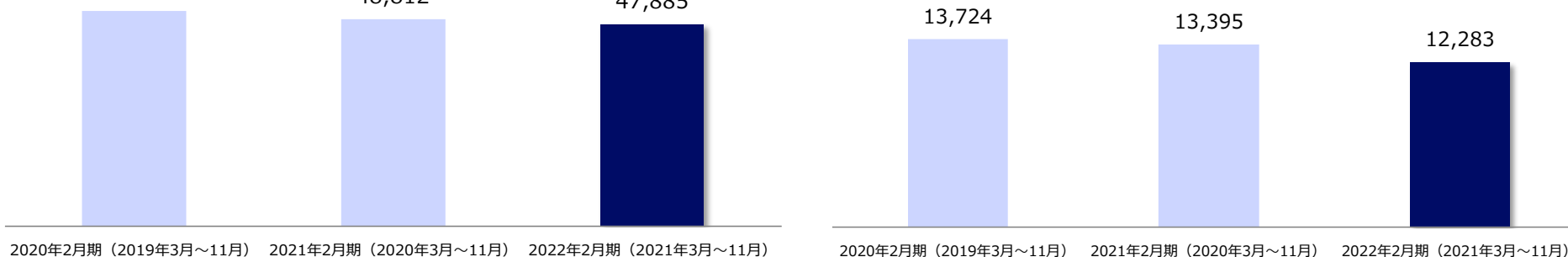
- 帝国劇場では、『DREAM BOYS』(9月公演)、『ナイツ・テイルー騎士物語ー』(10月公演)、『マイ・フェア・レディ』(11月公演)を、シアタークリエでは、『ドッグファイト』(9月～10月公演)、『VOICARION Ⅷ～女王がいた客室～』(10月公演)、『Home,I'm Darling～愛しのマイホーム～』(10月～11月公演)、『GREASE』(11月公演)等のバラエティに富んだ公演を感染対策を講じながら実施。
- 外部公演では、日生劇場において『ニュージーズ』(10月公演)、東京建物 Brillia HALLにおいて『マドモアゼル・モーツァルト』(10月公演)が好調に稼働。
- 東宝芸能(株)で所属俳優がCM出演等で好調に推移。
- 演劇事業全体としては、チケットの払い戻し・チケット販売の制限に加えて、外部公演の一部公演中止となった演目はあるものの、特に直営劇場において前年同期より多くの公演数を実施することができたため、大幅な増収増益。

セグメント別業績【不動産事業】

営業収入



営業利益



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、保有する物件の一時的なテナントの入替えや、入居テナントに対して賃料減額の措置を講じたこと等もあり、減収減益。
- 道路事業では、防災・減災対策や老朽化するインフラ整備をはじめとする公共投資が堅調に推移するなか、技術提案等を通じた積極的な営業活動により新規受注や既存工事の追加受注に努めたものの、減収減益。
- 不動産保守・管理事業では、東宝ビル管理(株)・東宝ファシリティーズ(株)において、ホテルや劇場等、商業施設の稼働率の改善による受注回復の動きが見られたほか、コストコントロールに努めた結果、増収増益。

業績・配当予想

■ 2022年2月期連結業績予想（2021年3月1日～2022年2月28日）

	営業収入	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円・銭
2022年2月期（予想）	226,000	38,000	40,000	26,000	147.00
前期実績増減率	17.7%	69.3%	65.3%	77.0%	
（ご参考） 2021年2月期実績	191,948	22,447	24,195	14,688	82.54

※直近に公表されている業績予想からの修正はありません。

■ 配当予想

	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期(実績)	—	17.50	—	—	—
2022年2月期(予想)	—	—	—	17.50	35.00
（ご参考） 2021年2月期実績	—	17.50	—	17.50	35.00

※直近に公表されている配当予想からの修正はありません。

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではございませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ
東宝株式会社 総務部 広報・IR室
TEL 03-3591-1303